

日本プロ野球監督の「監督力」を考える

Think ability of baseball manager in Japanese professional baseball

1K05B174

指導教員

主査 志々田文明先生

西山 裕貴

副査 作野誠一先生

はじめに

1. **研究動機・目的:** 本研究の目的は、プロ野球監督の『監督力』の要素」「主要プロ野球監督の『監督力』についての比較・評価」「プロ野球監督の時代による『監督力』の変化についての分析」を解明することである。そのため以下の方法をとった。
2. **方法:** 野球の「監督」になる者に必要な資質は何か、ということ調べた。監督に関する論文や文献、スポーツ指導者やコーチに関する文献、リーダーシップ論や経営者に関する文献を参照した。続いて、実際のプロ野球監督経験者を取り上げ、経験や実際の発言から、「監督力」に関する検討を行った。そして、上記で取り上げた監督を中心として年表にまとめ、野球観、監督のスタイルの変化、ライバル監督同士、スタイルの継承者を見出した。最後に、プロ野球監督の「監督力」を具体的にまとめ、定義した上で、監督同士の比較・検討を行う。

「指導者」としての監督と「経営者」としての監督：指導者とリーダーシップ論

1. 「指導者」としての監督：「監督」という言葉の意味を検討していくと、「指導者」的要素が浮かび上がってくる。指導者として注目すべき点は「補導」的意味が含まれることである。選手の意思に反する強制的な練習は「指導」の意味合いからは反しており、選手に対して、明確な目的を設定し、刺激を与え、導き、補うことの継続が、指導者の基礎であることを示し

た。また、指導者としては、自発的な行動を期待するのではなく、懲罰を与え、恐怖を利用して指導するのではなく、選手とコミュニケーションをとり、「気づき」を与えることが、自主性を生み出し、良い指導法だといえる。

2. 「経営者」としての監督：「監督」という意味の中には「経営者」の要素も含まれる。リーダーとして、いかに組織を動かすか、いかに人を育てるか、という課題や、常に非定型業務を扱うという共通点が見つかった。両者に共通する「リーダーシップ論」から理論的にリーダーシップ論やリーダーに必要な資質を分析し、リーダーシップ論ではリーダーとフォロワーとの関係性がポイントであることが分かった。そして、「監督」の存在、あり方を検討した。

主要プロ野球監督の指導と管理：

ここでは18人の監督について検討した。

プロ野球の監督の歴史

今までの理論を踏まえて、監督経験者の実践論を通して、「監督力」を検討した。そして、歴代のプロ野球監督を年表化したところから、同じ時代のライバル関係、野球スタイルの継承、野球観の変化などを見出した。

結論

本研究を通して、指導者論、リーダーシップ論、監督の実践論から「監督力」を定義し、「監督力」を一度「指導者－課題達成軸」「経営者－課題達成軸」「人間関係軸」の三つに分類し、そこから

「『監督力』の要素」を導いた。「主要プロ野球監督の『監督力』についての比較・評価」も、上記三つに分類してから、それぞれの分野に評価項目を定め、比較した。全ての分野を総合して比較すると、仰木彬氏と三原脩氏が「監督力」が優れていると判明した。「プロ野球監督の時代による『監

督力』の変化についての分析」は、これまでの日本プロ野球史を通じて、勝つための「監督力」に大きな変化は無かった。しかし、産業構造の変化が多少プロ野球に変化をもたらし、時代に合わせて、魅力ある監督は変化していくことが分かった。